2020年度シラバス

科目名:障害児心理学特論Ⅰ	担当者:勝浦 眞仁	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
関係発達論の立場から障碍のある子どもの保育・教育を探求していく講義を行う。まず関係発達論の基本概念を示す。その後、発達障碍や知的障害、気になる子などの論文購読を行い、関係発達論に基づいた障碍理解および支援のあり方を探る。

授業の到達目標
① 関係発達論の立場（両義性・間主観／間身体性・相互主体性・接面）を理解すること② 各自の研究領域を関係発達論の立場から問い直すことで、研究課題に対する新たな手がかりを得ること。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
保育や教育、発達支援等の場で、障がいのある子どもたちや「気になる」子どもたちと実際にかかわった体験や、保護者や保育者と子育てに関する相談に携わった経験が必要となる。

評価方法
論文講読の発表(50%）および学期末レポート（50%）に基づき、授業への取り組み等も含め総合的に評価する。

教科書	参考図書
勝浦眞仁（2016）共にあることを目指す特別支援教育－関係論から発達障碍を問い直すー，ナカニシヤ出版	随時紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
「いま、目の前にいる障碍のある子どもをいかに育てていくのか」を問いとする。障碍のある子どもとその家族や保育者など養育者と共に生き、考えていくことができる実践者・研究者の育成を目指している。

01	オリエンテーション
02	関係論とは（１）両義性
03	関係論とは（２）間主観／間身体性
04	関係論とは（３）相互主体性
05	発達障碍についての文献購読
06	発達障碍を関係論から問い直す
07	自閉症についての文献購読
08	自閉症を関係論から問い直す
09	ADHDについての文献購読
10	ADHDを関係論から問い直す
11	気になる子についての文献購読
12	気になる子を関係論から問い直す
13	インクルーシブ保育・教育についての文献購読
14	インクルーシブ保育・教育を関係論から問い直す
15	まとめ（関係論から障碍児心理を考える意義）
16	なし

2020年度シラバス

科目名:障害児心理学特論Ⅱ	担当者:勝浦 眞仁	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
障碍のある子どもたちを対象とした質的研究の方法論を学ぶ。観察法とインタビュー法について講義・演習し、それぞれの手法を用いた障碍児に関する論文を講読する。加えて、「関与観察とエピソード記述」という方法論について学ぶ。

授業の到達目標
① 障碍のある子どもたちを対象とした質的研究の方法論について理解を深めること② 各自の研究領域に適した方法を探求することにより、修士論文作成の手がかりを掴むこと③ 「関与観察とエピソード記述」という方法論について理解を深めること

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
保育や教育、発達支援等の場で、障がいのある子どもたちや「気になる」子どもたちと実際にかかわった体験や、保護者や保育者と子育てに関する相談に携わった経験が必要となる。

評価方法
論文講読の発表（50%）および学期末レポート（50%）に基づき、授業への取り組み等も含め総合的に評価する。

教科書	参考図書
勝浦眞仁（2016）共にあることを目指す特別支援教育－関係論から発達障碍を問い直すー，ナカニシヤ出版	随時紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
修士論文作成において、方法論を問うことは必須である。各自の研究課題に対して、質的研究の観点から問い直す機会となれば幸いである。

01	オリエンテーション
02	障碍のある子どもたちを対象とした事例研究のあり方（1）子どもの日常に接近するために
03	障碍のある子どもたちを対象とした事例研究のあり方（2）研究者倫理の問題
04	観察法（1）観察のあり方
05	観察法（2）フィールドノートの取り方
06	観察法（3）観察演習
07	観察法を用いた障碍児に関する論文講読
08	インタビュー法（1）質的研究の観点から
09	インタビュー法（2）インタビューの過程
10	インタビュー法（3）インタビュー演習
11	インタビューを用いた障碍児に関する論文講読
12	関与観察とエピソード記述（1）関与観察
13	関与観察とエピソード記述（2）エピソード記述
14	関与観察とエピソード記述を用いた障碍児に関する論文講読
15	まとめ
16	なし

科目名:発達心理学特論Ⅰ	担当者:加藤 義信	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　教育や保育は、子どもたち自身の普遍的かつ個性的な「発達」を実現するためにある。本授業では、その達成に資する最新の発達心理学的な知見を学ぶと同時に、「発達とは何か」について根本から考える姿勢の涵養をめざす。前期の特論Ⅰでは、特に乳幼児期の発達過程の詳細と発達理論を中心に授業を展開する。　授業は、講義、映像資料の視聴、論文講読の３つの柱からなるが、毎回、自由闊達な議論の場となることを重視したい。

授業の到達目標
　乳幼児期を中心とする子どもの発達過程を詳しくたどり、発達のグランド・セオリーがその過程への教育的介入をどのように捉えているかについて学ぶ。このことを通して、子どもの不思議に改めて向き合い、新しい眼差しで子どもをめぐる現象を眺め、感じ、考えることのできるセンスを磨く。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　事前に配布された論文の抜粋や資料を前もって必ず読んで要点を整理し、不明な点は調べたりしておくこと。

評価方法
　授業に積極的に取り組む姿勢50%、論文講読等の発表の際に作成されるレジュメの質50%を念頭に、総合的に評価する。

教科書	参考図書
なし。	その都度紹介し、資料を配布する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　日常慣れ親しんだ風景も、少し視点を変えるだけで、違った相貌のもとに見えることがある。それと同じで、子どもという不思議を改めて発見する新しい視点を、授業を通して少しでも学んでもらえれば本望である。

01	オリエンテーション（授業の概要と進め方について説明）
02	歴史的視点からみた子どもの発達
03	人間生命の誕生
04	乳児期の発達１（運動的側面）
05	乳児期の発達２（認知的側面）
06	乳児期の発達３（情動的側面）
07	乳児期の発達４（ピアジェ理論とワロン理論は乳児期をどう捉えたか？）
08	乳児期から幼児期へ（表象機能の発達）
09	幼児期の発達１（ことばの誕生）
10	幼児期の発達２（認知能力の発達）
11	幼児期の発達３（社会性の発達）
12	幼児期の発達４（発達理論は幼児期をどう捉えたか？）
13	幼児期から児童期へ（第２のことばの世界の誕生）
14	乳幼児期の発達にとって保育の観点から何が重要か？
15	全体のまとめ
16	なし

2020年度シラバス

科目名:発達心理学特論Ⅱ	担当者:加藤 義信	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　特論Ⅱでは特論Ⅰを踏まえて、発達に関する理論的な問題や発達障がいについて学ぶ。生物学的なヒトが人間として育っていく過程には、他の動物にはない「まねる」と、表象を介して「ならう」という２つの「学び」の形態がある。したがって、特にこの２つについて深く検討してみたい。　授業は、特論Ⅰと同様、講義、映像資料の視聴、論文講読の３つの柱からなるが、毎回、自由闊達な議論の場となることを期待している。

授業の到達目標
　子どもの発達に関して私たちが持っている素朴な信念を疑うところから出発し、改めて「発達とは何か」について深く理論的に考えてみる。また、昨今、重要性を増している発達障がいの問題を心理学的・教育学的視点からどのように捉えるべきかについて、理解を深める。それらを通して、実際の子どもの姿を通して見られる人間の発達の不思議について、自ら考える力を養う。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　事前に配布された論文の抜粋や資料を前もって必ず読んで要点を整理し、不明な点は調べたりしておくこと。

評価方法
　授業に積極的に取り組む姿勢50%、論文講読等の発表の際に作成されるレジュメの質50%を念頭に、総合的に評価する。

教科書	参考図書
なし。	その都度紹介し、資料を配布する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　子どもの行動の背後にある心理的メカニズムについて学ぶことにより、子どもは発達途上にある、どのような制約条件をもった存在かが見えてくる。その発見を保育や教育に生かす方途をそれぞれ考えてもらえれば本望である。

01	オリエンテーション（授業の概要と進め方について説明）
02	発達における遺伝と環境１（現代遺伝論の新しい地平）
03	発達における遺伝と環境２（遺伝及び環境と人間の自由）
04	系統発生と個体発生（人間はどこまで動物か？）
05	発達と教育の原点としての「まねる」と「ならう」
06	子どもの模倣論１（「まねる」の始まり）
07	子どもの模倣論２（行為を「まねる」）
08	子どもの模倣論３（欲求を「まねる」）
09	身体と行為を介した学習から表象を介した学習へ（表象機能はどのようにして生まれるか？）
10	発達障がいを発達論的にとらえるとは？
11	発達障がいと療育１（自閉症スペクトラム障がい研究の現在）
12	発達障がいと療育２（自閉症スペクトラム障がい者の当事者研究からわかってきたこと）
13	発達障がいと療育３（学習障がい研究の現在）
14	発達障がいと療育４（特に算数障がいとは？）
15	全体のまとめ
16	なし

科目名:乳幼児心理学特論Ⅰ	担当者:布施 佐代子	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
0歳児から5歳児までの乳幼児の一般的な心理発達の過程とそのしくみについて、具体的な保育実践事例を中心としたテキストを読み込むことを通して学び直していきます。人間の一生の発達を見通しながら現実の子どもの姿をどうとらえるかを考え、とくに遊びを中心に幼児期の保育のありかた、遊びと学びの関係等についてディスカッションしながら理解を深めます。テキスト講読の際は、持ち回りでリポーターをしていただき進めます。

授業の到達目標
１．乳幼児期の心理発達について、一般的な姿を学び直した上で、保育現場の実際の子どもを見つめ直し、理解を　深めることができる。２．生涯発達の視点から乳幼児の発達を的確にとらえ、保育・教育の中での遊びの意義を深く理解し、具体的な方法・内容と関わらせながら考えていくことができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
発達の理論的な学習と実践とを結びつけて理解を深めることを大切にしていきますので、授業の前後の学修もしっかり行うよう努めてください。準備学修では、事前に配布された論文や資料、テキストの該当部分をよく読み、要点や疑問点をまとめておいてください。事後学修では、授業で学習したことを振り返り、要点をその都度確認し、課題を整理しておくようにしましょう。

評価方法
試験課題レポート　６0%、授業への取り組み状況・参加態度　４0%で総合的に評価します。

教科書	参考図書
今井和子『遊びこそ豊かな学び』ひとなる書房	授業時に随時紹介していきます。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
乳幼児の発達について何度でも学び直す気持ちを大切にしましょう。必ず新しい発見があります。変動の多い現代社会の中で、乳幼児期にはどんなことを大切にしていったらよいか一緒に考え学び合いましょう。連絡手段等は授業時にお伝えします。

01	授業の進め方等のガイダンスおよび受講生の問題意識の交流
02	乳幼児期に育てたい力とは？（１）「子ども時代」喪失の危機を考える
03	乳幼児期に育てたい力とは？（２）なぜ「今」遊びが大切なのか考える
04	子どもの発達と遊びの中の学び（１）　0・1歳の時期
05	子どもの発達と遊びの中の学び（２）　1・2歳の時期
06	子どもの発達と遊びの中の学び（３）　２・３歳の時期
07	子どもの発達と遊びの中の学び（４）　３・４歳の時期
08	子どもの発達と遊びの中の学び（５）　５・６歳の時期
09	保育実践事例から遊びと学びについて考える（１）　０・１歳児
10	保育実践事例から遊びと学びについて考える（２）　２・３歳児
11	保育実践事例から遊びと学びについて考える（３）　４歳児
12	保育実践事例から遊びと学びについて考える（４）　５歳児
13	遊びと学びについて（１）遊びと学びの関係
14	遊びと学びについて（２）小学校教育との接続・連携の視点から考える
15	遊びと学びについて（３）受講生各自の実践や学んだことの発表・交流
16	まとめ まとめ

2020年度シラバス

科目名:乳幼児心理学特論Ⅱ	担当者:布施 佐代子	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
乳幼児の一般的な心理発達過程とそのしくみについて、文献の保育実践事例を読み合いながら確認し、学び直していく。発達の中でも、とくに集団生活における子ども同士の育ち合いに注目し、受講生各自の実践事例等も出し合い検討しながら、乳幼児期の仲間づくり、集団づくりについて具体的に考え、理解を深めていく。乳幼児期の集団づくりに関する文献を受講生でレポーターを分担し、読み合わせながらのディスカッションを中心に進める。

授業の到達目標
１．乳幼児期の心理発達について、一般的な姿を学び直したうえで、保育現場の実際の子どもを見つめ直し理解を　深めることができる。２．生涯発達の視点から乳幼児の発達を的確にとらえ、保育・教育の中での仲間づくり・集団づくりの具体的な方法・内容を考え、自身の実践に活かすことができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業で学ぶ理論的なことと実践を結びつけて理解し、実践に活かしていくことを大切にしていただきたいので、授業だけでなくその前後の学習も重視します。準備学修として、事前に配布された資料やテキストの該当部分をよく読み、要点や疑問点をまとめておくこと。事後学修としては、授業で学んだことを振り返り、要点をその都度確認し、課題を整理しておくようにしてください。

評価方法
試験課題レポート　60%、授業への取り組み状況・参加態度　40%で、総合的に評価します。

教科書	参考図書
全国幼年教育協議会集団づくり部会編『支えあい育ちあう乳幼児期の集団づくり』かもがわ出版	授業時に随時紹介していきます。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
乳幼児期の仲間づくりがなぜ大切なのか、児童期以降の仲間づくりとどうつながっていくのか、子ども同士が互いに認め合い、育ちあっていくためには、保育上どんな工夫や配慮が必要か一緒に考え、学び合いましょう。

01	子どもの育ちと集団づくり　―　「仲間と育ちあう」ことの意義について考える　―
02	文献の実践事例から集団づくりの視点を学ぶ（１）　0歳児
03	文献の実践事例から集団づくりの視点を学ぶ（２）　１歳児
04	文献の実践事例から集団づくりの視点を学ぶ（３）　２歳児
05	文献の実践事例から集団づくりの視点を学ぶ（４）　３歳児
06	文献の実践事例から集団づくりの視点を学ぶ（５）　４歳児
07	文献の実践事例から集団づくりの視点を学ぶ（６）　５歳児
08	文献の実践事例から集団づくりの視点を学ぶ（７）　異年齢保育
09	文献の実践事例から集団づくりの視点を学ぶ（８）　保護者・保育者の仲間づくり
10	子どもの仲間関係、集団づくりに関する文献・論文から学ぶ（１）3歳未満児を中心に
11	子どもの仲間関係、集団づくりに関する文献・論文から学ぶ（２）3歳以上児を中心に
12	実践事例を通して集団づくりの視点を深める（１）　ヒーローごっこ遊びの実践例から
13	実践事例を通して集団づくりの視点を深める（２）　遊びこむことと行動の切り替えの関係
14	実践事例を通して集団づくりの視点を深める（３）　受講生の実践から学び合う
15	実践事例を通して集団づくりの視点を深める（４）　受講生の実践から学び合う
16	まとめ（　試験課題レポート　）

2020年度シラバス

科目名:カウンセリング特論Ⅰ	担当者:小嶋 玲子	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:カウンセリング特論Ⅱも履修するとより理解が深まります。		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
カウンセリング特論Ⅰでは、カウンセリングに使われるさまざまな理論と技法について学びます。

授業の到達目標
カウンセリングで使われる理論と技法について理解し、それが日常生活で使えるようになること。実際に誰かから相談を受けたときに、授業で学んだ理論と技法が使え、受講前よりも相談者の役に立てるようになること。カウンセリングを学ぶことで自己理解・他者理解が深まること

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業で学んだ理論と技法を日常生活の中で使ってみることです。２回め以降は前の回に資料を配布・指定するのでそれを予習してくることが求められます。

評価方法
授業への参加態度50%と提出されたレポートの内容（50%）

教科書	参考図書
授業への参加態度50%と提出されたレポートの内容（50%）	随時紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先は授業時に公開する。

01	カウンセリングとは何か？心理療法・ガイダンス等との相違
02	日本のカウンセリングの特徴
03	カウンセリングの効用と限界について理解する
04	精神分析学の理論を学び、カウンセリングへの利用を理解する
05	カウンセリング時の防衛機制・抵抗・転移について学ぶ
06	来談者中心療法について学び、カウンセラーの基本姿勢について理解する
07	ユング心理学について学び、人間の影の部分への理解を深める
08	アドラー心理学について学び、問題行動への理解と、勇気づけなどを理解する
09	交流分析理論を基にしたカウンセリングを学び、自分の応答について知る
10	自身のエゴグラムや心理テストからカウンセラーとしての自己理解をする
11	認知行動療法を基にしたカウンセリングを学び、自分の価値観について考える
12	表現療法を学び、言語的メッセージ以外での関わりの理解を深める
13	カウンセリング時における非言語的メッセージについて理解を深める
14	問題解決アプローチの方法を学ぶ
15	マイクロカウンセリングについて学ぶ
16	

2020年度シラバス

科目名:カウンセリング特論Ⅱ	担当者:小嶋 玲子	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:カウンセリング特論Ⅰを受講していること		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
実際のカウンセリング事例をもとにロールプレイやグループワーク・体験学習を中心に授業を行う。

授業の到達目標
カウンセリング特論Ⅰで学んだ理論や技法がどのように実際のカウンセリング場面で使われているかを理解する。カウンセリングの技法が実際の相談事例の中で使えるようになる。カウンセリングのロールプレイをすることで自己理解・他者理解を深めること

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業で学んだ理論と技法を日常生活の中で使ってみることです。２回め以降は前の回に資料を配布・指定するのでそれを予習してくることが求められます。

評価方法
授業への参加態度50%と提出されたレポートの内容（50%）

教科書	参考図書
授業への参加態度50%と提出されたレポートの内容（50%）	授業時に随時紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先は授業時に公開する。

01	カウンセリングの基本姿勢・効用等　カウンセリング特論Ⅰの復習
02	面接技法　ロールプレイ（１）　聴く
03	面接技法　ロールプレイ（２）　応答の仕方
04	面接技法　ロールプレイ（３）　ジョイニング　質問の仕方
05	面接技法　ロールプレイ（４）　非言語的メッセージの重要性
06	面接時のアセスメントについて学ぶ
07	面接時の表現療法導入について学び、実際に体験する（１）　コラージュ
08	面接時の表現療法導入について学び、実際に体験する（２）　交互色彩分割法　スクイグル
09	カウンセリングのインテークから終結までの流れについて理解する
10	集団面接について学ぶ　（家族療法）
11	面接の実際　ロールプレイ（乳幼児の保護者）
12	面接の実際　ロールプレイ（幼児・小学校低学年）
13	面接の実際　ロールプレイ（子どもと保護者の同時面接）
14	箱庭を実際に体験し、箱庭療法について理解する。
15	箱庭療法の理論について学ぶ
16	

2020年度シラバス

科目名:教育相談特論Ⅰ	担当者:小嶋 玲子	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:教育相談特論Ⅰと教育相談特論Ⅱを続けて履修することが望ましい		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本授業では、子どもや保護者に対する相談支援活動をする際の理論や技法について学びます。教育相談特論Ⅰでは、乳幼児期の子どもと保護者を対象にし、Ⅱでは児童期の子どもや保護者を対象とします。

授業の到達目標
授業の到達目標　育児・保育・教育場面での支援においては、支援や相談に関する知識の習得が必要条件です。加えてその知識が、育児支援や保育・教育場面での支援において実践できることが十分条件となります。したがって、教育相談特論ⅠⅡでは、知識の習得とその知識を自分の力として実際に使えるようになることが目標となります。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業の到達目標に述べた必要十分条件を満たすためにLearningに加え、相談技術のtraining を行ってください。対人援助を行うためには自己理解が必要です。授業を通して自分の心の動きにも敏感になってください。・授業内に数回レポートを課します。

評価方法
日常的な授業への参加態度、自主的・主体的・協力的な学習への取り組みを重視します。さらに、学習の成果のまとめとしての個人またはグループでの提出を義務づけられるレポート(50%)、および授業内でのロールプレイや討論（50%）で評価します。

教科書	参考図書 授業時に随時紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワー及び連絡先等は授業時に開示する。

01	育児場面・教育・保育現場で支援が求められる背景や現状の理解
02	支援及び支援者の基本姿勢について学ぶ
03	支援ニーズの把握に関する理論を学ぶ
04	支援技法に関する理論を学ぶ　（1）　精神分析・交流分析・アドラー心理学
05	支援技法に関する理論を学ぶ　（2）　来談者中心療法・家族療法
06	親教育プログラム実施にむけてファシリテーションの技法を学ぶ
07	アセスメントについて学ぶ
08	個別ニーズの関するアセスメントの方法を学ぶ
09	アセスメントを支援現場で活用する方法を学ぶ
10	子どもへの支援の実際を学ぶ 子どもへの支援の実際を学ぶ
11	保護者への支援の実際を学ぶ
12	支援の具体的な流れを知り、多職種との連携・協働について学ぶ（１コンサルテーション）
13	支援の具体的な流れを知り、多職種との連携・協働について学ぶ（Ⅱカンファレンス）
14	コミュニティでの支援について考える
15	保育者（教員）、子育て支援センター等で働く支援従事者への支援について学ぶ
16	

科目名:教育相談特論Ⅱ	担当者:小嶋 玲子	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:教育相談特論のⅠとⅡを続けて履修することが望ましい。		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
教育相談特論ⅠⅡでは、子どもや保護者に対する相談支援活動をする際の理論や技法について学びます。教育相談特論Ⅰでは、乳幼児期の子どもと保護者を対象にし、教育相談の基本を押さえ、Ⅱでは児童期の子どもや保護者を対象とし、事例を通して具体的に学びます。

授業の到達目標
育児・保育・教育場面での支援においては、支援や相談に関する知識の習得が必要条件です。加えてその知識が、育児支援や保育・教育場面での支援において実践できることが十分条件となります。したがって、教育相談特論ⅠⅡでは、知識の習得とその知識を自分の力として実際に使えるようになることが目標となります。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業の到達目標に述べた必要十分条件を満たすためにLearningに加え、相談技術のtraining を行ってください。対人援助を行うためには自己理解が必要です。授業を通して自分の心の動きにも敏感になってください。授業内に数回レポートを課します。

評価方法
学習の成果のまとめとしての個人またはグループでの提出を義務づけられるレポート（50%）、および授業内でのロールプレイや討論（50%）で評価します。日常的な授業への参加態度、自主的・主体的・協力的な学習への取り組みを重視します。

教科書	参考図書 授業内で随時紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワー及び連絡先等は授業時に開示します。

01	教育相談の今日的意味
02	教育相談で使用されるカウンセリングの技法について学ぶ（1）言語的なかかわりを中心として
03	教育相談で使用されるカウンセリングの技法について学ぶ（２）非言語的なかかわりを中心として
04	教育相談における心理アセスメントについて学ぶ
05	学校現場で使用する心理検査について学ぶ
06	心理検査を教育相談に活かす方法を学ぶ
07	事例から学ぶ教育相談（１）育児不安
08	事例から学ぶ教育相談（２）虐待の疑い
09	事例から学ぶ教育相談（３）子どもに障害がある
10	事例から学ぶ教育相談（４）保護者からのクレームを考える
11	事例から学ぶ教育相談（５）保護者の精神疾患
12	事例から学ぶ教育相談（６）家族関係の問題
13	教育相談における職員間の連携について学ぶ
14	事例を通して関係機関とのコーディネートについて学ぶ
15	自分の経験事例を報告する　まとめ
16	

2020年度シラバス

科目名:教育心理学特論Ⅰ	担当者:堀 由里	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法 子どもを取り巻く様々な環境の変化、家庭・地域社会の教育力の低下が指摘され、小1プロブレムなど発達や学びの連続性を確保することも課題となっている。教育心理学特論Ⅰでは、理論と実践を統一した学びを体現するため、教育実践に資する研究を自らが行うための実力を養う。教員による講義と学生の論文紹介を中心に、教育・保育の現場で出会う子どもたちや教師・保育者の心理を学ぶ。
授業の到達目標 1）教育心理学の基礎的知識を説明することができる。2）教育・保育における今日的課題を理解できる。3）学術論文の内容を理解し、他者にプレゼンすることができる。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 準備学修：事前に配布した資料を読み、要点や疑問点をまとめておく。事後学修：授業を自分なりに要約し、新たな研究の発展を考える。
評価方法 授業への主体的・協調的な参加状況（30%）、論文紹介発表（40%）、研究課題レポート（30%）

教科書 適宜、資料配布	参考図書 授業中に指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 実践と研究が乖離してしまわないように、常に現場を体感しつつ、アカデミックな視点でも捉え直してみましょう。オフィス・アワーや連絡手段については授業内で伝える。

01	教育・保育における子ども理解に果たす教育心理学の役割
02	乳幼児期の遊びが知的・身体・社会性・情緒・言語発達に与える影響
03	親子関係と仲間関係が社会性の発達に与える影響
04	役割取得能力や社会的スキルの発達・学習
05	認知発達理論に基づいた道徳性、思いやりの発達
06	心の理論を背景にした嘘、関係性攻撃
07	自己効力感、有能感の獲得と発達
08	習うこと・真似ることの意味
09	子どもの意欲の源泉
10	評価されること、評価すること
11	先生としてのリーダーシップ
12	学習の躓きとワーキングメモリ
13	適正処遇交互作用
14	発達の偏りや外国につながりのある子など特別に配慮が必要な子どもの心理
15	研究のシーズをみつける
16	なし

2020年度シラバス

科目名:教育心理学特論Ⅱ	担当者:堀 由里	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法 特論Ⅰでは教育・保育の今日的課題を研究から理解し、研究のシーズを各自が発見することを目標とした。特論Ⅱでは、教育心理学が対象とする子どもの発達、学習過程、グループダイナミックス、適応、教授法、評価などを研究する際の方法論について講義とワークを中心に行う。
授業の到達目標 1）心理学の方法論について説明できる。2）研究目的にそった方法論を選択することができる。3）様々な研究方法を実践することができる。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 準備学修：事前に配布した資料を読み、要点や疑問点をまとめておく。事後学修：授業を自分なりに要約し、新たな研究の発展を考える。
評価方法 授業への主体的・協調的な参加状況（50%）、研究課題レポート（50%）

教科書	参考図書
適宜、資料配布	授業中に指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 実践と研究が乖離してしまわないように、常に現場を体感しつつ、アカデミックな視点でも捉え直してみましょう。オフィス・アワーや連絡手段については授業内で伝える。

01	教育・保育の今日的課題の確認
02	教育・保育で活かす心理学の研究方法
03	実験法（1）体験
04	実験法（2）分析
05	実験法（3）考察
06	質問紙調査（1）体験
07	質問紙調査（2）分析
08	質問紙調査（3）考察
09	面接法（1）体験
10	面接法（2）分析
11	面接法（3）考察
12	観察法（1）体験
13	観察法（2）分析
14	観察法（3）考察
15	研究論文の構成
16	なし

2020年度シラバス

科目名:教育学特論Ⅰ	担当者:金子 晃之	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　１．教科書の内容について報告し討論する。　２．報告し討論した後のまとめを、次回冒頭に報告し討論する。　１と２を併せて教育・保育専門職として必要な知識・技能・能力の基礎力と応用力を高める。

授業の到達目標
この授業では、日本型のしつけと西欧型のしつけの比較を通して、家庭での親子関係や、幼稚園、保育園での就学前教育と学校教育との接続について考察し、小学校、幼稚園、保育園の実践を相対化する視座を養う。併せて教育・保育専門職として必要な知識・技能・能力の基礎力と応用力を高める。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　上記１については、１回の授業毎に、事前学修として、受講生各自が範囲を一読しレジュメを作成すること。　上記２については、１回の授業毎に、事後学修として、受講生各自がまとめを行ないレジュメを作成すること。　＊事前学修２時間、事後学修２時間を確保すること。

評価方法
　授業時の発言・報告の内容・態度（50点）、各回のまとめを中心として作成するレポートの内容（50点）を合計して100点満点で評価する。

教科書	参考図書
恒吉僚子『子どもたちの三つの「危機」　国際比較から見る日本の模索』勁草書房	適宜、指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　オフィスアワーについては、依頼があれば随時設定する。

01	考察の視点について
02	日本型のしつけと教育のシステム
03	人格形成力
04	教育に貢献する文化
05	平等主義
06	均質的高学力
07	絆の育児
08	就学前教育
09	家庭と学校の断絶
10	努力の文化
11	子どもの二極化
12	日本の価値
13	全人教育の再評価
14	日本の家庭について考える
15	日本の小学校、幼稚園、保育園の実践を考える
16	なし

科目名:教育学特論Ⅱ	担当者:金子 晃之	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　１．教科書の内容について報告し討論する。　２．報告し討論した後のまとめを、次回冒頭に報告し討論する。　１と２を併せて教育・保育専門職として必要な知識・技能・能力の基礎力と応用力を高める。

授業の到達目標
この授業では、日本型のしつけと西欧型のしつけの調査研究の比較を通して、家庭での親子関係や、幼稚園、保育園での就学前教育と学校教育との接続について考察し、小学校、幼稚園、保育園の実践を相対化する視座を養う。併せて教育・保育専門職として必要な知識・技能・能力の基礎力と応用力を高める。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　上記１については、１回の授業毎に、事前学修として、受講生各自が範囲を一読しレジュメを作成すること。　上記２については、１回の授業毎に、事後学修として、受講生各自がまとめを行ないレジュメを作成すること。＊事前学修２時間、事後学修２時間を確保すること。

評価方法
　授業時の発言・報告の内容・態度（50点）、各回のまとめを中心として作成するレポートの内容（50点）を合計して100点満点で評価する。

教科書	参考図書
東洋『日本人のしつけと教育　発達の日米比較にもとづいて』東京大学出版会	適宜、指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　オフィスアワーについては、依頼があれば随時設定する。

01	考察の視点について
02	日本のしつけと教育
03	アメリカのしつけと教育
04	受容的勤勉性
05	自主的選考性
06	夫婦中心
07	アタッチメントの在り方
08	言語的自己主張
09	自己統制
10	自立
11	権威
12	母子の心情の一体化
13	教え込み型
14	滲み込み型
15	日本の小学校、幼稚園、保育園の実践を考える
16	なし

2020年度シラバス

科目名:教育史特論Ⅰ	担当者:金子 晃之	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
１．担当者の割り振りを行い、教科書の内容について報告し討論する。２．担当者の割り振りを行い、指定された課題について報告し討論する。

授業の到達目標
　この授業では、日本の幼稚園の歴史を通して、幼児教育の近代化の問題、幼保二元化の問題、義務教育と就学前教育の問題、幼保小連携について考察し、それらの問題を歴史的に考察する視座を身に付ける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　上記１については、担当者が報告について準備学修を行うが、参加者各自が範囲を一読し、ノートを取っておくこと、またその回の事後学修としてのまとめを行っておくこと。 上記２については、担当者が報告について準備学修を行うこと。毎回の授業後に参加者各自が、その回の事後学修としてのまとめを行っておくこと。＊事前学修２時間、事後学修２時間を確保すること。

評価方法
　授業時の発言・報告の内容（50点）、各回のまとめを中心として作成するレポートの内容（50点）を合計して100点満点で評価する。

教科書	参考図書
宍戸健夫『日本における保育園の誕生』新読書社	適宜、指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワー　希望があり次第、随時設定する。

01	考察の視点について
02	東京女子師範学校附属幼稚園
03	恩物とフレーベル幼稚園
04	明治10年代の幼児保育政策
05	簡易幼稚園
06	二葉幼稚園
07	野口幽香と徳永恕
08	児童保護事業
09	倉敷さつき会保育所
10	保育一元化論
11	幼稚園令と託児所令
12	公立保育園と小学校①大阪
13	公立保育園と小学校②東京
14	保育士と小学校教師
15	近代幼児教育と小学校の問題
16	なし

2020年度シラバス

科目名:教育史特論Ⅱ	担当者:金子 晃之	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　１．担当者の割り振りを行い、教科書の内容について報告し討論する。　２．担当者の割り振りを行い、指定された課題について報告し討論する。

授業の到達目標
　この授業では、倉橋惣三の著作の講読を通して、倉橋の子ども観、教育観、誘導保育について検討し、倉橋が描いた子ども理解と教育計画の特性を、教育史の中に位置づける視座を身に付ける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　上記１については、担当者が報告について準備学修を行うが、参加者各自が範囲を一読し、ノートを取っておくこと、またその回の事後学修としてのまとめを行っておくこと。 上記２については、担当者が報告について準備学修を行うこと。毎回の授業後に参加者各自が、その回の事後学修としてのまとめを行っておくこと。＊事前学修２時間、事後学修２時間を確保すること。

評価方法
　授業時の発言・報告の内容（50点）、各回のまとめを中心として作成するレポートの内容（50点）を合計して100点満点で評価する。

教科書	参考図書
倉橋惣三『幼稚園真諦』『幼稚園雑草(上)(下)』	適宜、指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　オフィスアワー　希望があり次第、随時設定する。

01	考察の視点について
02	幼稚園保育法
03	保育案の実際
04	保育過程の実際
05	園丁雑感
06	森の幼稚園
07	幼稚園雑感
08	幼児の教育者
09	幼児教育小観
10	保育論形成期
11	フレーベル幼稚園
12	恩物
13	倉橋惣三の教育史的位置付け
14	誘導保育と小学校教育
15	誘導保育と現代
16	なし

科目名:幼児教育学特論Ⅰ	担当者:鈴木 裕子	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:幼稚園教諭専修免許状		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
乳幼児期の発達にふさわしい幼児教育と，今後の我が国の幼児教育のあり方について，受講生の問題関心に応じて、最近の学会誌や著作の文献を読み進めるとともに討議を行い，問題意識を明確にできるように進める。今日的な保育の課題や研究動向として，保育の質とそれを保障する制度や政策，保育思想，保育内容，乳幼児の発育発達，諸外国との比較などの基礎的な知見と認識を深めることにも重点を置く。

授業の到達目標
幼児教育を、研究として焦点化していくために必要な基礎的知識，理論的な視点を習得し，問題意識を明確にする。今日的な保育の課題に照らし合わせて、幼児教育・保育のあり方について基礎的な知識や最近の研究知見を学ぶ。最近の研究の動向を知ることを通して，自身の研究の現状や課題を整理し，今後の研究への示唆を得る。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
各回において課題となる文献，論文，資料を精読するなど，自主的な学習の成果を持ち寄ることが望まれる。

評価方法
文献内容と方法のレビューと発表60%，討論への参加40%

教科書	参考図書
指定しない	受講者の興味関心、背景を考慮し随時紹介し内容の充実を図る。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育経験の有無に関わらず，各々が問題意識を持って授業にのぞんでほしい。

01	受講生各々の関心を語り今後のテーマや読むべき文献を検討する。
02	受講生の関心に沿って雑誌や書籍を総覧し，まとめ方を検討し合う。
03	文献の順次購読（ex幼児教育における現代的課題）
04	文献の順次購読（ex幼児教育を取り巻く現代的課題）
05	文献の順次購読（ex我が国における乳幼児期の発達を支える教育アプローチや思想）
06	文献の順次購読（ex諸外国における乳幼児期の発達を支える教育アプローチや思想）
07	文献の順次購読（ex幼児期の遊びの重要性）
08	文献の順次購読（ex幼児期の遊びにおける発達の重要性とその支援）
09	文献の順次購読（ex乳幼児期における特色ある保育内容）
10	文献の順次購読（ex乳幼児期における保育内容の創造）
11	文献の順次購読（ex子ども理解と保育内容）
12	文献の順次購読（ex子ども理解と支援方法）
13	文献の順次購読（ex子育て支援）
14	扱ってきた文献と議論を振り返り、保育・教育実践研究のあり方を提示し討議する。
15	扱ってきた文献と議論を振り返り、保育・教育実践研究のあり方を提示し討議する。
16	

2020年度シラバス

科目名:幼児教育学特論Ⅱ	担当者:鈴木 裕子	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:幼稚園教諭専修免許状		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
現代の幼児教育・保育研究は，様々な社会的要請を受け，既存の研究方法だけでは充分な対応ができなくなっており，今日的な課題に照らした方法を検討することが強く求められる。本授業では，近年の保育に関する研究論文のレビューを通して、それらの研究課題や方法について理解し討議する。同時に保育の場面で感覚的に捉えられていることを言葉にして整理したり、論理的に考察したり、他者との話し合いをもとに再吟味したりすることを経験する。

授業の到達目標
幼児教育に関する研究方法を知り，研究的な視点からの分析・考察を行うことを通して、幼児教育研究に必要な基礎的知識を習得する。保育現場に寄り添って臨床的・実践的に研究できる能力と，それらの研究と実際の保育の環流を図り，創造的に追究できる研究力を培うことを目指す。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
文献の講読，発表および受講者間での議論を通して，主体的に学びを深める。 文献の抄録，あるいは自主的な学習の成果を持ち寄り，共同で理解を深めるための討論ができる準備をすることがのぞまれる。

評価方法
文献内容と方法のレビューと発表60%，討論への参加40%

教科書	参考図書
指定しない	受講者の興味関心、背景を考慮して随時紹介し内容の充実を図る。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育経験の有無に関わらず，各々が問題意識を持って授業にのぞんでほしい。

01	受講者の関心に基づき，研究方法を理解するための文献の収集
02	受講者の関心に基づき，研究方法を理解するための文献の決定と計画
03	保育実践を研究へと焦点化するために：問題の所在と目的とは
04	保育実践を研究へと焦点化するために：先行研究の整理とその意義
05	保育実践を研究へと焦点化するために：研究倫理の問題
06	保育実践を研究へと焦点化するための方法：内部者（当事者性）による研究
07	保育実践を研究へと焦点化するための方法：質的研究：事例研究，観察，映像，エピソード記述
08	保育実践を研究へと焦点化するための方法：質的研究：インタビュー・面接
09	保育実践を研究へと焦点化するための方法：質的研究：分析方法 M-GTA，SCAT，TEMなど
10	保育実践を研究へと焦点化するための方法：質的研究：分析方法 M-GTA，SCAT，TEMなど
11	保育実践を研究へと焦点化するための方法：質的研究：分析方法 M-GTA，SCAT，TEMなど
12	保育実践を研究へと焦点化するための方法：量的研究：質問紙調査後の統計処理
13	保育実践を研究へと焦点化するための方法：量的研究：χ2検定，分散分析などの統計処理と考察
14	保育実践を研究へと焦点化するための方法：量的研究：因子分析など
15	成果の総括
16	

2020年度シラバス

科目名:社会学特論Ⅰ	担当者:嶋守 さやか	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　社会学の巨匠と呼ばれるA．コント、M．ウェーバー、T．パーソンズ、また、カント、ヘーゲル理論から、「社会とは何か」「自らが問題とする対象を研究する際に、研究者が踏まえるべき前提」とは何かを学習する。「研究する」ということ、研究対象を選定するということ、その方法論等の研究における受講生の基本的な姿勢・実践を、授業中に扱う社会学理論に依拠しながら確認・習得する。

授業の到達目標
授業テーマの講義・説明後、受講者の選定に基づく課題についての研究成果を発表する。この場合、発表の準備、プレゼンテーションの方式、文書資料の探索と整理、口述の技法などについても理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
受講者が分担する課題について、その発表の準備、プレゼンテーションの方式等についての解説に則り、レジュメ等の準備をする。また、その発表後の研究成果についてのレポート作成を事後学修とする。

評価方法
レジュメの作成（30%）、報告（30%）およびレポート作成（40%）にて評価する。

教科書	参考図書
柿本昭人・嶋守さやか『社会の実存と存在』世界思想社、1998年	適宜指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　研究初心者であり、かつ、自らの掲げたテーマや課題に誠実かつ真摯に取り組む姿勢を持てることを受講要件とする。社会学・理論についての習熟度は問わない。オフィスアワーは毎週金曜日のお昼休みとする。

01	授業オリエンテーション（授業目的、授業の進め方等についての説明）
02	映像資料による「社会」の理解――記録と記述について
03	映像資料による「社会」の理解――グループディスカッションおよびプレゼンテーション
04	「社会」とは何か――研究対象を定めるということ
05	デュルケム――「もの」としての社会
06	デュルケム――「規範」とは何か
07	パーソンズ――「システム」という考え方
08	パーソンズ――秩序と病理
09	ウェーバー――宗教と社会
10	ウェーバー――主観性と科学
11	カント――「認識」自体の成立と始源
12	ヘーゲル――無限判断
13	ヘーゲル――Xを思考する
14	グループディスカッションおよびプレゼンテーション
15	まとめ――社会学は「社会」を研究する学問なのか？
16	なし

2020年度シラバス

科目名:社会学特論Ⅱ	担当者:嶋守 さやか	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　研究対象となる社会の営みを質的に調査する手法について学修する。フィールドワーク、参与観察法、聞取り調査、ライフヒストリー研究、ドキュメント分析等の質的調査法に関する基本的理解を踏まえ、受講者の関心対象に応じたフィールドでの聞取り調査を実施し、質的データの収集と質的分析について理解する。

授業の到達目標
　統計的数量的調査とは異なる事例研究の技法を習得し、様々な事例研究方法の理解および実践的能力を習得することを授業の到達目標としたい。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業テーマの講義・説明後、そのテーマ内容と受講者の関心に応じた予備調査を行うことを準備学修課題とする。また、その質的データ分析結果をレポートとしてまとめることを事後学修課題とする。

評価方法
レジュメの作成（30%）、報告（30%）およびレポート作成（40%）にて評価する。

教科書	参考図書
授業中に指示する	嶋守さやか『孤独死の看取り』新評論

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　研究初心者であり、かつ、自らの掲げたテーマや課題に誠実かつ真摯に取り組む姿勢を持てることを受講要件とする。オフィスアワーは毎週金曜日のお昼休みとします。

01	授業オリエンテーション（授業目的、授業の進め方等についての説明）
02	質的調査の基本的な考え方
03	質的調査と研究倫理
04	質的調査法（１）フィールドワーク、参与観察法
05	質的調査法（２）ライフヒストリー分析、会話分析
06	質的調査法（３）ドキュメント分析、グラウンデッド・セオリー・アプローチ
07	質的調査法（４）聞きとり調査、インタビュー（構造化、半構造化）
08	質的調査の実際（１）問いを立て、技法を選択する
09	質的調査の実際（２）記録する
10	質的調査の実際（３）データを処理する
11	質的調査の実際（４）結果を分析する
12	質的調査の実際（５）考察を行う
13	質的調査の実際（６）報告書を作成する
14	質的調査の実際（７）調査結果を報告する
15	グループディスカッションおよびプレゼンテーション
16	なし

科目名:教育行政学特論Ⅰ	担当者:近藤 正春	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
授業では、教育行政学の理論上の基本問題を検討するとともに、今日の教育行政学が対象とすべき教育行政の当面している実践的な諸問題、諸課題について、文献、資料等を通して検討することを課題とする。

授業の到達目標
教育行政の機能について教育の社会的な編制、学校等の経営管理等を含めて全体的な理解を深めるとともに、現代日本の教育行政の歴史と到達点、課題等と結びつけて教育行政の政策的、理論的課題について認識を深めることを目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
課題の文献等の資料を読み込み、内容の概要、問題点、課題等を考察し、レポートとしてまとめる作業を事前・事後の学修の課題とする。特に、文部科学省、厚生労働省、内閣府等の政府関係の行政・法令資料、その他自治体・教育委員会関係の行政資料等は、関係のホームページ等を適宜閲覧して必要な情報を入手するようにすることを求めたい。

評価方法
　適宜、受講者に求めるレポート報告の内容(30%)、最終的な試験レポートの内容(70%)により、総合的に評価する。

教科書
　使用しない

参考図書
　近藤正春『科学としての教育行政学』教育資料出版、１９８８年
　鈴木英一編『教育改革と教育行政』勁草書房　　榊 達雄編『教育自治と教育制度』 その他、適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　オフィスアワー　　水曜日昼休み　教育事象を広い視野で総合的に分析しうる力量を獲得するため、授業へ積極的な取り組みを期待したい。

01	ガイダンス
02	教育行政学の歴史的な展開（１）：１９５０年代以降
03	教育行政学の歴史的な展開（２）：１９７０年代以降
04	教育行政学の歴史的な展開（３）：１９９０年代以降
05	教育行政学の方法概念の検討（１）：教育政策、教育運動、教育行政（その１）
06	教育行政学の方法概念の検討（２）：教育政策、教育運動、教育行政（その２）
07	実践科学としての教育行政学の構想（１）：教育における矛盾の階層
08	実践科学としての教育行政学の構想（２）：教育実践の内在的な矛盾
09	実践科学としての教育行政学の構想（３）：教育と社会の矛盾の解決形態としての教育行政
10	教育行政学の理論的な諸問題（１）教育行政の変容と教育行政学との応答性
11	教育行政学の理論的な諸問題（２）教育と社会の関係の構造転換と教育行政学
12	12教育行政学の理論的な諸問題（３）民間非営利組織の役割と教育行政学（その１） 13教育行政学の理論的な諸問題（４）民間非営利組織の役割と教育行政学（その２）
13	教育行政学の理論的な諸問題（４）民間非営利組織の役割と教育行政学（その２）
14	教育行政学の理論的な諸問題（５）行政評価の機能と教育行政学
15	教育行政の今日的課題と教育行政学
16	まとめ

2020年度シラバス

科目名:教育行政学特論Ⅱ	担当者:近藤 正春	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　授業では、教育行政学の理論上の基本問題を検討するとともに、今日の教育行政学が対象とすべき教育行政の当面している実践的な諸問題、諸課題について、文献、資料等を通して検討することを課題とする。

授業の到達目標
　教育行政の機能について教育の社会的な編制、学校等の経営管理等を含めて全体的な理解を深めるとともに、現代日本の教育行政の歴史と到達点、課題等と結びつけて教育行政の政策的、理論的課題について認識を深めることを目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　課題の文献等の資料を読み込み、内容の概要、問題点、課題等を考察し、レポートとしてまとめる作業を事前・事後の学修の課題とする。教育行政の現状、行政実例等を把握するため、文部科学省、厚生労働省、内閣府等の国の機関のホームページ、自治体・教育委員会等のホームページ等を適宜閲覧し、情報の収集を奨励する。

評価方法
　適宜、求められるレポート報告の内容（30%）、最終的な試験レポートの内容（70%）により、総合的に評価する。

教科書
　使用しない

参考図書
　鈴木英一編『教育改革と教育行政』勁草書房、榊達雄編『教育自治と教育制度』（大学教育出版）、近藤正春「教育委員会制度改革の位置づけ」『都市問題 Vol.106』（後藤・安田記念東京都市研究所）　　その他、適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　オフィスアワー　　水曜日昼休み　教育事象を広い視野で総合的に分析しうる力量を獲得するため、授業へ積極的な取り組みを期待したい。

01	ガイダンス
02	規制改革と教育行政の問題と課題（１）
03	規制改革と教育行政の問題と課題（２）
04	規制改革と教育行政の問題と課題（３）
05	分権改革と教育行政の問題と課題（１）
06	分権改革と教育行政の問題と課題（２）
07	分権改革と教育行政の問題と課題（３）
08	子ども子育て支援新制度と教育行政の問題と課題（１）
09	子ども子育て支援新制度と教育行政の問題と課題（２）
10	子ども子育て支援新制度と教育行政の問題と課題（３）
11	子ども子育て支援新制度と教育行政の問題と課題（４）
12	民間非営利組織と教育行政の問題と課題（１）
13	民間非営利組織と教育行政の問題と課題（２）
14	教育行政評価の問題と課題（１）
15	教育行政評価の問題と課題（２）
16	まとめ

科目名:保育内容特論Ⅰ	担当者:田中 義和	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
保育学研究における遊び研究の到達点と課題について学び、保育における遊び指導の在り方について検討する。

授業の到達目標
遊び研究の現状と課題について理解し、研究的な視点を持ち、保育実践に取り組む力量を形成する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業で取り上げる文献についての報告準備。授業中に課された課題の提出。

評価方法
授業態度（50%） レポート（50%）

教科書	参考図書
特に使用しない。	授業中に指示

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
たくさんの論文を読み、多様な研究方法について理解を深めてください、。連絡手段は、授業中に指示します。

01	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（へんかする素材の遊び）
02	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（変化する素材の遊び）
03	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（変化する素材の遊び）
04	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（変化する素材の遊び）
05	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（鬼遊び）
06	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（鬼遊び）
07	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（鬼遊び）
08	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論 （鬼遊び）
09	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（探険遊び
	び)	
10	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（険遊び）
11	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（探険遊び）
12	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論 【プロジェクト活動）
13	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（プロジェクト活動）
14	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（プロジェクト活動）
15	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（プロジェクト活動）
16		

2020年度シラバス

科目名:保育内容特論Ⅱ	担当者:田中 義和	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法 描画表現活動の指導について主な民間教育団体（保育問題研究会・創造美育協会・美術教育を進める会・新しい絵の会・キミコ方式など）の理論と実践について学ぶ。
授業の到達目標 保育内容「表現」領域、特に描画表現活動の発達と指導について、保育学研究の到達点と課題について理解する。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 授業でとりあげる文献についての報告準備。授業中に出された課題の学習。
評価方法 授業態度（50%） レポート（50%）

教科書 授業中に指示	参考図書 授業中に指示

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 積極的に討論に参加してください。

01	なぐりがき期の発達とその指導(1)
02	なぐりがき期の発達とその指導(2)
03	前図式期の発達とその指導（１）
04	前図式期の発達とその指（2）
05	図式の発達とその指導（1）
06	図式期の発達とその指導（2）
07	図式期の発達とその指導（３）
08	障害を持つ子どもたちの描画発達とその指導（1）
09	障害を持つ子どもたちの描画発達とその指導(2)
10	子どもの絵の診断的見方（1）
11	子どもの絵の診断的見方(2)
12	松本キミ子方式
13	創造美育協会の理論と実践（！）
14	創造美育協会の理論と実践（2）
15	東京保育問題研究会絵画部会の理論と実践
16	

2020年度シラバス

科目名:保育内容特論Ⅲ	担当者:木村 達志	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法 子どもの今日的な課題を把握するため、研究的な視点を持って文献を網羅し、健康に関する理解を深めます。授業計画に列挙されている内容を受講者が分担し、プレゼンテーションを行っていただきます。先行研究における研究手法や統計解析方法についても学習します。
授業の到達目標 国内外の子どもの健康について、ご自身の研究テーマに関わる文献の収集と整理ができる。量的研究および質的研究の方法や統計解析を理解する。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 授業で取り上げる文献の準備とプレゼンテーション
評価方法 ディスカッションへの取り組み60％　プレゼンテーションの内容40%

教科書	参考図書 必要に応じて案内します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 連絡手段は授業時に案内します

01	子どもの健康について：学術論文の検索、文献の記載方法
02	子どもの健康について：研究手法を検討する：量的研究、質的研究
03	子どもの健康について：研究手法を検討する：質的研究における研究手法
04	子どもの健康について：研究手法を検討する：調査
05	子どもの健康について：研究手法を検討する：インタビュー
06	子どもの健康について：研究手法を検討する：介入
07	日本の子どもの健康：近世の健康教育
08	日本の子どもの健康：現代の健康教育
09	日本の子どもの健康：幼稚園教育要領および保育所保育指針における位置づけとその変遷
10	日本の子どもの健康：発育発達
11	日本の子どもの健康：発達障害（身体的）
12	日本の子どもの健康：発達障害（精神的）
13	日本の子どもの健康：生活環境
14	日本の子どもの健康：疾病
15	日本の子どもの健康：経済と政策
16	

2020年度シラバス

科目名:保育内容特論Ⅳ	担当者:木村 達志	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
子どもの今日的な課題を把握するため、研究的な視点を持って文献を網羅し、身体運動に関する理解を深めます。授業計画に列挙されている内容を受講者が分担し、プレゼンテーションを行っていただきます。先行研究における研究手法や統計解析方法についても学習します。

授業の到達目標
国内外の子どもの健康について、ご自身の研究テーマに関わる文献の収集と整理ができる。量的研究および質的研究の方法や統計解析を理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業で取り上げる文献の準備とプレゼンテーション

評価方法
ディスカッションへの参加60%、プレゼンテーションの内容40%

教科書	参考図書 必要に応じて案内します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段は授業時に案内します

01	子どもの健康に関して受講者によるプレゼンテーション:収集した学術論文のまとめ1
02	子どもの健康に関して受講者によるプレゼンテーション:収集した学術論文のまとめ2
03	子どもの健康に関して受講者によるプレゼンテーション:研究手法の選択
04	子どもの健康に関して受講者によるプレゼンテーション:アンケートの実例
05	子どもの健康に関して受講者によるプレゼンテーション:インタビューの実例
06	子どもの健康に関して受講者によるプレゼンテーション:介入研究の実例
07	発育発達と運動:幼児期
08	発育発達と運動:児童期
09	発育発達と運動:青年期
10	幼稚園教育要領および保育所保育指針における身体運動の位置づけとその変遷
11	子どもの体力、運動能力向上のための実践例　3歳未満
12	子どもの体力、運動能力向上のための実践例　年少
13	子どもの体力、運動能力向上のための実践例　年中
14	子どもの体力、運動能力向上のための実践例　年長
15	小学校体育との連携
16	まとめ

2020年度シラバス

科目名:食育特論Ⅰ	担当者:辻岡 和代	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法 １．食育に関する指針や栄養に関する基礎知識を学ぶための講義（6回）２．子どもの発育・発達に合わせた食育に関するディスカッションと演習（9回）
授業の到達目標 １．栄養についての基礎知識や、食育、食生活に関する諸問題について理解する２．食育に関する文献を収集し、ディスカッションすることができる３．保育園、幼稚園、小学校における食育を実践するための基礎的なスキルを身につけることができる
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 自分自身の食生活についての振り返りを常に行うこと。また、食と栄養に関する情報の真偽が自分で判断できるように授業内での学習をもとに積極的に調べ、考える力を養うこと。
評価方法 授業への参加態度40%、プレゼンテーション60%の割合で評価する

教科書	参考図書
必要に応じて授業内に指示する	保育所保育指針　等　各指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 連絡先は授業で開示する

01	食育に関するオリエンテーション
02	食育に関する指針（１）食育基本法と食育基本計画
03	食育に関する指針（２）保育所保育指針　保育所における食育に関する指針
04	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能
05	食育に関する文献収集と論文抄読
06	食生活の現状と食育計画
07	乳児期の食育
08	1歳児の食育
09	2歳児の食育
10	3歳児の食育
11	4歳児の食育
12	5歳児の食育
13	学童期の食育
14	保護者を交えた食育
15	特別な配慮を要する子どもの食育
16	

2020年度シラバス

科目名:食育特論Ⅱ	担当者:辻岡 和代	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
１．食に関する諸問題をテーマとした食育に関する計画と演習（4回）
２．地域の特性を活かした食育に関する計画と演習（3回）
３．子どもを対象とした食育に関する計画と演習（8回）

授業の到達目標
１．食生活に関する諸問題を踏まえた食育を計画することができる
２．地域の特性を活かした食育を計画することができる
３．幼児・児童を対象とした食育を実践するためのスキルを身につけることができる

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
食生活に関する諸問題についての情報収集と演習後の振り返り
地域で行われている食育活動に関する調査（広報・新聞など）
食文化に関する調べ学習
食育活動に関する情報収集（論文・文献など）
プレゼンテーションの準備

評価方法
授業（各演習時のプレゼンテーション含む）への参加態度70％、レポート課題30％の割合で評価する

教科書	参考図書
必要に応じて授業内に指示する	食育白書　等

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先は授業で開示する

01	食育に関するオリエンテーション
02	食の諸問題と食育活動
03	食の諸問題に対応した食育計画
04	食の諸問題に対応した食育計画と演習
05	地域の食文化と食育活動
06	地域の食文化を活かした食育計画
07	地域の食文化を活かした食育計画と演習
08	保育園・幼稚園における食育
09	保育園・幼稚園における食育計画
10	保育園・幼稚園における食育計画と演習
11	子どもを対象とした食育
12	子どもを対象とした食育の計画
13	子どもを対象とした食育の準備
14	子どもを対象とした食育の演習
15	子どもを対象とした食育の振り返り
16	

2020年度シラバス

科目名:体育特論Ⅰ	担当者:平野 朋枝	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
「体育特論Ⅰ」と「体育特論II」を通して、子どもの体力低下の現状を踏まえ、学校体育における課題を明確にするとともに、体育授業における指導内容の系統性について考える。
「体育特論Ⅰ」では、まず子どもの体力低下の現状と原因について、調査と意見交換を通して課題の整理を行う。また、教育現場での体育指導の見学を通して、学校体育の課題を検討する。その上で、体力向上を実現する体育授業のあり方を考える。

授業の到達目標
１、子どもの体力低下の現状を理解する。
２、学校体育の課題を理解する。
３、体力向上を実現するための指導計画を立案する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
子どもの体力低下に関する関連資料等を収集し、読み込み、理解を深めておく。

評価方法
講義への主体的な参加態度・ディスカッションへの積極的なかかわり(30%)、提出物（40%）、実践活動（40%）

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	授業の概要、子どもの体力低下①
02	子どもの体力低下②（文献抄読）
03	子どもの体力低下③（文献抄読、教育現場の現状）
04	子どもの体力低下④（調べ学習の発表）
05	学校体育の課題①（文献抄読、教育現場の現状）
06	学校体育の課題②（授業見学）
07	学校体育の課題③（授業見学）
08	学校体育の課題④（現場での聞き取り）
09	学校体育の課題⑤（意見交換）
10	課題への対応策の検討①
11	課題への対応策の検討②
12	課題への対応策の検討③
13	指導計画作成①
14	指導計画作成②
15	まとめ
16	なし

2020年度シラバス

科目名:体育特論Ⅱ	担当者:平野 朋枝	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法 「体育特論Ⅰ」と「体育特論II」を通して、子どもの体力低下の現状を踏まえ、学校体育における課題を明確にするとともに、体育授業における指導内容の系統性について考える。 「体育特論II」では、「体育特論Ⅰ」で立案した授業計画の一部を実践し、さらに現場の教師と意見交換することを通して、自分の指導力を高めるとともに、体力向上を実現する授業のあり方を考える。
授業の到達目標 １、指導計画に基づいた授業実践を行う。 ２、実践を振り返り、次の授業計画を立案する。 ３、体力向上を実現する授業方法について自分なりの考えを持つ。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 体育科教育に関する資料等を収集し、読み込み、理解を深めておく。
評価方法 講義への主体的な参加態度・ディスカッションへの積極的なかかわり(30%)、提出物（40%）、発表（40%）

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 「体育特論II」の履修には「体育特論Ⅰ」の単位取得を必要とする。

01	授業の概要、指導計画の確認
02	授業実践①
03	授業実践の振り返りと次回の計画①
04	授業実践の振り返りと次回の計画②
05	授業実践②
06	授業実践の振り返り
07	いろいろな体育授業の実践①
08	いろいろな体育授業の実践②
09	いろいろな体育授業の実践③
10	体育科教育に生かす運動生理学
11	体育科教育に生かす疫学
12	体育科教育に生かす運動方法学
13	体育科教育に生かす体育心理学
14	体育授業の意義
15	まとめ
16	なし

2020年度シラバス

科目名:児童福祉特論 I	担当者:古畑 淳	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　児童の成長と発達の権利を保障するための制度や法システムについて研究する。授業では、国や自治体の児童福祉の政策動向の考察のほか、児童の人権を争点とする裁判事例の検討などを行う。　授業は、教員の講義、受講者のレポート報告（プレゼンテーション）、テーマ討論（グループディスカッション）、文献講読等を組み合わせて進めていく。【AL】

授業の到達目標
　児童の成長と発達の権利を保障するための制度や法システムについての理解を深めることを到達目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　報告者は、指示した文献、裁判例を熟読した上でレポート報告レジュメを作成し、授業に臨むこと。　指示した文献、裁判例をよく読んで、知識の定着を図ること。

評価方法
　報告の準備内容（25%）、報告内容（25%）、討論への参加状況（25%）レポート試験（25%）で評価する。　レポート試験として、授業で取り上げたテーマについての6000字程度のレポートを求める。

教科書	参考図書
社会福祉法令が掲載されている六法を授業で使用する。開講時に紹介する。	必要に応じて紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　質問等のある院生は、オフィスアワーの時間に訪ねてください。

01	ガイダンス
02	児童（子ども）の人権について
03	児童（子ども）の人権問題の現状
04	児童育成の責任主体（保護者の責任）
05	児童育成の責任主体（公的責任）
06	児童福祉サービスの体系の現状
07	児童福祉サービスの体系の課題
08	児童福祉の実施体制の現状
09	児童福祉の実施体制の課題
10	児童福祉サービスの供給主体の現状
11	児童福祉サービスの供給主体の課題
12	児童福祉サービスの規制監督の仕組み
13	児童福祉サービスの規制監督をめぐる課題
14	児童福祉サービスの利用手続の仕組み
15	児童福祉サービスの利用手続の課題
16	

2020年度シラバス

科目名:児童福祉特論Ⅱ	担当者:古畑 淳	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　児童の成長と発達の権利を保障するための制度や法システムについて研究する。授業では、国や自治体の児童福祉の政策動向の考察のほか、児童の人権を争点とする裁判事例の検討などを行う。　授業は、教員の講義、受講者のレポート報告（プレゼンテーション）、テーマ討論（グループディスカッション）、文献講読等を組み合わせて進めていく。【AL】

授業の到達目標
　児童の成長と発達の権利を保障するための制度や法システムについての理解を深めることを到達目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　報告者は、指示した文献、裁判例を熟読した上でレポート報告レジュメを作成し、授業に臨むこと。　指示した文献、裁判例をよく読んで、知識の定着を図ること。

評価方法
　報告の準備内容（25%）、報告内容（25%）、討論への参加状況（25%）レポート試験（25%）で評価する。　レポート試験として、授業で取り上げたテーマについての6000字程度のレポートを求める。

教科書	参考図書
社会福祉法令が掲載されている六法を授業で使用する。開講時に紹介する。	必要に応じて紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　質問等のある院生は、オフィスアワーの時間に訪ねてください。

01	ガイダンス
02	児童福祉の財政
03	児童福祉の費用負担
04	保育保障（制度改革の内容）
05	保育保障（制度改革の課題）
06	保育保障（自治体の保育政策）
07	保育保障（自治体の保育課題）
08	児童虐待の現状
09	児童虐待防止の課題
10	児童虐待と児童保護の法システム
11	児童虐待事例の法的検討
12	ひとり親家庭の福祉
13	ひとり親家庭の所得保障
14	児童の人権
15	児童の人権をめぐる裁判事例の検討
16	

科目名:図画工作特論Ⅰ	担当者:淺野 卓司	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:図画工作特講ⅠとⅡは内容の連関があるため、Ⅱを履修する前にⅠを学修すること。		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
図画工作特講はⅠとⅡで構成されており、3歳以上児の造形的表現活動において、小学校での学びを見通したカリキュラム・実践の在り方について検討することを目的とする。図画工作特講Ⅰは、小学校図画工作の学習を通して育つ「資質・能力」を学力三要素と教科目標・内容の関連性について学ぶ。さらに具体的な題材を選び、教科書分析や指導書における指導留意点から、幼児期から小学校へ繋がる造形指導の在り方について検討し実践できるようになる。

・小学校低学年を中心とした図画工作の授業の実際について理解する（全6回）。
・教科書研究と教材研究について学ぶ（全5回）。
・造形活動の評価について学ぶ（1回）。
・プレゼン資料の作成を行い、幼児期から小学校へ繋がる活動について発表を行う（全3回）。

授業の到達目標
（1）小学校図画工作における教科の目標や内容を理解することができる。
1）学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造について理解できるようになる。
2）当該教科の学習評価の考え方を理解できるようになる。
3）当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができるようになる。
（2）学力三要素を踏まえた造形的表現にかかる題材の繋がりを理解し、具体的な活動の連関について理解ができるようになる。
1）幼児期から小学生の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた題材設

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
1.幼児期から小学校低学年に繋がる造形的活動について、活動の目的・目標や内容の違いや共通性といった特徴を踏まえながら要点をまとめる24時間6回
2.教科書研究に関して、教科書の題材一覧や指導書を参考にしながら、子供の活動理解や評価の視点について要点をまとめる20時間5回
3.研究テーマの沿ったプレゼン資料作りを行い、題材の目標・内容、指導上の留意点、評価に関する発表準備を行う。16時間4回

評価方法
講義への出席（10%）、最終的なプレゼン発表（60%）・関連資料（30%）の内容により、総合的に評価する。

教科書	参考図書
小学校学習指導要領解説　図画工作編（平成29年6月　文部科学省）	『幼児期から児童期への教育』 国立教育政策研究所 教育課程研究センター ひかりのくに 『確かな感性と認識を育てる保育』全国保育問題研究協議会 新読書社 『乳幼児期の発達にふさわしい教育実践』全米乳幼児教育協会 東洋館出版社

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・授業においてパソコンを利用し、資料の閲覧を行う。資料提示はMoodleにて行う（キーボードを使った入力に慣れるため、スマートフォンの利用はしない）。

01	小学校における造形遊びについて（低学年・映像資料視聴）
02	幼児期の表現活動と小学校低学年の造形活動との関連について（論議）
03	小学校図画工作の目標及び内容と「資質・能力」について（学習指導要領の理解）
04	絵や立体・工作に表す活動に関する理解
05	鑑賞教育の目標と内容、〔共通事項〕についての理解
06	他教科の単元と図画工作の題材との連関についての理解
07	教科書研究の進め方について
08	題材の検討
09	教材研究（低学年の題材）
10	教材研究（中学年の題材）
11	教材研究（高学年の題材）
12	活動評価についての基礎的理解と評価指標の検討
13	プレゼン作成①
14	プレゼン作成②
15	発表・まとめ
16	

2020年度シラバス

科目名:図画工作特論Ⅱ	担当者:淺野 卓司	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:図画工作特講ⅠとⅡは内容の連関があるため、Ⅱを履修する前にⅠを学修すること。		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
図画工作特講はⅠとⅡで構成されており、3歳以上児の造形的表現活動において、小学校での学びを見通したカリキュラム・実践の在り方について検討することを目的とする。図画工作特講Ⅱでは、図画工作特講Ⅰを踏まえ、幼児の造形的表現の活動における今日的課題について、環境構成型の保育実践を小学校における学習を見通した表現活動カリキュラム・保育内容という側面から捉えることができるようになる。

・環境構成型の保育実践に関する基礎的な理解（全5回）。
・造形活動を中心とした保育のカリキュラムデザイン（全3回）
・導入事例の検索・検討（全3回）。
・レポート作成と発表（全4回）。

授業の到達目標
（1）環境構成型の保育実践について、造形活動の位置づけや意義について理解することができる。
1）環境構成型の保育実践について、プロジェクトアプローチの事例を参照にしながら、その特徴について理解ができるようになる。
2）プロジェクトアプローチの理論や方法について文献をもとに理解ができるようになる。
3)プロジェクトアプローチにおけるアートと実践との関係を理解し、関連する論考などからカリキュラムや保育実践に活用することが検討できるようになる。
（2）保育カリキュラムにおける造形表現の位置づけや実践を通して表

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
1.環境構成型の保育実践について、動画資料や文献（主に教科書）から基礎的な知識をまとめる。またこれまでの園における実践と指導上の留意点について、考察をまとめる。20時間　5回
2.造形活動を中心とした保育のカリキュラムについて、目的や内容の関連性から精査を行う。「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」等今日的な課題を踏まえたカリキュラムについて検討を行いまとめる。12時間8回
3.環境構成型の保育実践について、指定された教科書や参考書、インターネット等を検索し、実践の特徴をまとめる。指導計画な

評価方法
講義への出席（10%）、レポート（60%）・発表（30%）の内容により、総合的に評価する。

教科書
『プロジェクト型保育の実践研究　協同的学びを実現するために』　北大路書房

参考図書
『幼児期から児童期への教育』 国立教育政策研究所 教育課程研究センター ひかりのくに
『確かな感性と認識を育てる保育』全国保育問題研究協議会 新読書社
『乳幼児期の発達にふさわしい教育実践』全米乳幼児教育協会 東洋館出版社

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・授業においてパソコンを利用し、資料の閲覧を行う。資料提示はMoodleにて行う（キーボードを使った入力に慣れるため、スマートフォンの利用はしない）。

01	レッジョエミリア市における実践①（映像資料視聴）
02	レッジョエミリア市における実践②（映像資料視聴）
03	実践における特徴のまとめ
04	環境構成型の保育実践について①
05	環境構成型の保育実践について②（レポート）
06	保育カリキュラムの検討①
07	保育カリキュラムの検討②
08	保育カリキュラムの検討③
09	保育カリキュラムの検討④
10	保育カリキュラムの検討⑤（中間まとめ）
11	環境構成型の保育実践の事例検討①
12	環境構成型の保育実践の事例検討②
13	環境構成型の保育実践の事例検討③
14	プレゼン作成
15	発表（最終まとめ）
16	

科目名:特別支援教育特論Ⅰ	担当者:柏倉 秀克	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
特別支援教育の概要とその動向について歴史的背景、教育課程と教育内容、教育制度や教育政策、障害児者福祉、教育権保障の視点から検討する。さらにインクルーシヴ教育の国際的な動向について検討を深める。

授業の到達目標
①わが国の特別支援教育の概要を理解すること。②特別支援教育の動向を多方面から分析すること。③インクルーシヴ教育の国際的な動向について理解すること。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修としては特別支援教育に関連する基本文献を各自がレビューすること。事後学修としては障害児者に対し実践的にかかわる経験をできるだけ多く持つことが求められる。

評価方法
授業内の発言（20%）、プレゼンテーション（20%）、学期末レポート（60%）で総合的に評価する。

教科書	参考図書
授業中にレジュメを配布する。	授業中に紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
受講するにあたって特別支援教育に対する「問い」や「疑問」を持ち寄っていただきたい。その答えや解決への道筋をみなさんとともに授業の中で追及していきたい。

01	障害の概念
02	障害者の歴史と教育
03	障害者福祉の発展と障害児の教育問題
04	ノーマライゼーションとリハビリテーション
05	自立生活運動の広がりと特殊教育
06	ICFが教育に与えた影響
07	21世紀における障害者制度改革
08	特殊教育から特別支援教育へ
09	学習指導要領（特別支援教育）の概要
10	特別支援教育における特色ある教育課程
11	特別支援教育におけるキャリア支援
12	特別支援教育と教育者に求められる専門性
13	特別支援教育を取り巻く世界の状況
14	イギリスにおけるインクルーシヴ教育
15	特別支援教育の課題
16	なし

科目名:特別支援教育特論Ⅱ	担当者:柏倉 秀克	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法 特別支援教育制度とカリキュラムの現状について概説する。さらに障害種別ごとに必要とされる特別支援教育の基本的な理念や教育方法の概要について解説する。
授業の到達目標 ①特別支援教育制度とカリキュラムの現状を理解する。②障害種別ごとの基本的な理念、概要、教育方法の現状について理解する。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 準備学修としては特別支援教育に関連する基本文献を各自がレビューすること。事後学修としては障害児者に対し実践的にかかわる経験をできるだけ多く持つことが求められる。
評価方法 授業内の発言（20%）、プレゼンテーション（20%）、学期末レポート（60%）で総合的に評価する。

教科書	参考図書
授業中にレジュメを配布する。	授業中に紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 受講するにあたって特別支援教育に対する「問い」や「疑問」を持ち寄っていただきたい。その答えや解決への道筋をみなさんとともに授業の中で追及していきたい。

01	特別支援教育制度
02	特別支援教育の場
03	特別支援教育のカリキュラム
04	視覚障害教育の理念と概要
05	視覚障害教育の現状
06	聴覚障害教育の理念と概要
07	聴覚障害教育の現状
08	知的障害教育の理念と概要
09	知的障害教育の現状
10	肢体不自由教育の理念と概要
11	肢体不自由教育の現状
12	病弱教育の理念と概要
13	病弱教育の現状
14	発達障害教育の理念と概要、現状
15	特別支援教育と関連社会資源との連携
16	なし